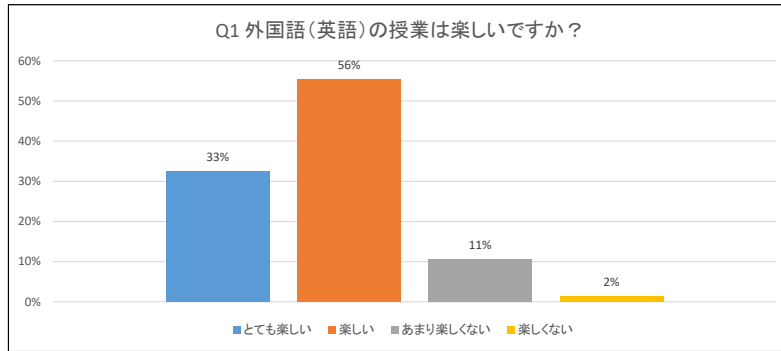
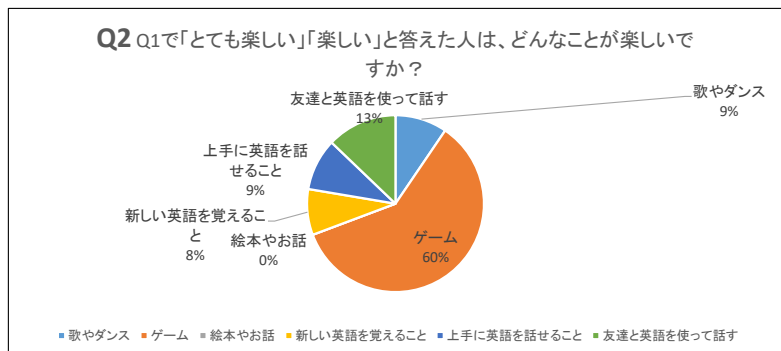


令和6年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(豊川小)



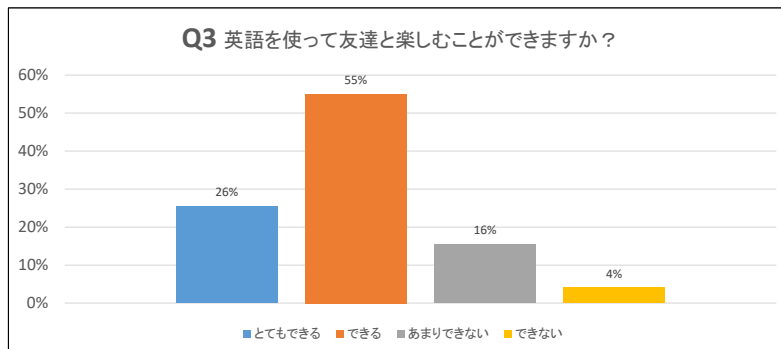
【Q1について】

○外国語(英語)の授業についての肯定値(とても楽しい、楽しい)は約90%である。
児童は、楽しく授業に参加している。



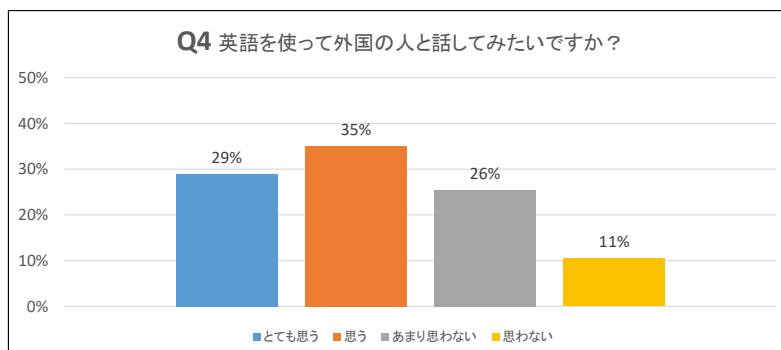
【Q2について】

○授業には、ゲームを通して楽しく参加している。
また、新しく英語を覚えたり、上手に英語を話せたりと知的好奇心の高まりに楽しさを感じている児童もいる。
さらに、友達との協働的な学びに対しても楽しさを感じている。



【Q3について】

○英語を使って友達と楽しむことができるの肯定値(とてもできる、できる)は約80%である。
児童は、協働的な学びに対しても楽しむことができている。



【Q4について】

○英語を使って外国の人と話してみたいの肯定値(とても思う、思う)は約50%である。
学んだことを日常生活で生かそうと思っている児童をさらに増やす必要がある。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

○肯定的な意見が多かった。
○対話形式で積極的に発表し、楽しく学んでいた。グローバル化が進む中で、単なる英語の知識技能だけではなく、コミュニケーションツールとして学んでいる姿が素晴らしい。
○1年生から英語を学ぶのであれば、英語専科の先生を市内全ての小・中学校に配置し、ALTと一緒に授業することで、正しい発音で話す・聞く力を付けてほしい。

【考察・今後の展望等】

○1年生から実態に合わせて、ALTと一緒に歌や挨拶、ゲーム等様々な活動を通して英語を学ぶことができるため、英語に対する関心・意欲も高く、保護者や地域の評価も高い。
○今後、英語専科の全校配置やより活用しやすい教材の開発や共有できるシステムづくりを進めることでさらに取組の充実が期待できると考える。